

第 2 3 回から第 2 4 回までの再生会議結果

平成 2 0 年 9 月 9 日（火）

第 23 回 会 議	【平成 1 9 年 1 2 月 2 7 日（火）午後 6 時～午後 9 時】 1 第 2 1 回から第 2 2 回までの再生会議の結果について 第 2 1 回から第 2 2 回までの再生会議結果について、資料 1 に基づき、大西会長から概要が報告された。 2 平成 2 0 年度千葉県三番瀬再生実施計画（案）について 資料 3 - 1 ～ 6 により意見交換が行われた。主な意見等は次のとおり。 ・三番瀬からのメッセージという趣旨の囲み記事を、有力一般紙に掲載することは予算がかかって大変だが、自ら積極的に三番瀬に行かない人達に、何らかの手段で三番瀬に関する情報を伝えられないか。市町村広報を見る人も多いので、市に申し込んで具体的に進めて欲しい。 ・記者クラブを通じた記事の投げ込みなど 1 年でどのくらい取り上げられたのか。 ・【県の回答】最近の例では、知事会見等で三番瀬再生国際フォーラムの P R をしたり、三番瀬再生会議についても開催ごとに記者投げ込みや県民だより等で P R している。今後はさらに広く一般の方々の目に触れるように、市の広報への掲載など綿密にやっていきたい。 ・最近、県民の方と直接対話するような場をほとんどつくっていないのではないかと思う。以前は普段働いている世代にも伝わるように休日に場を設けて、各市に出かけて行って説明するチャンスを作っていた。県民に直接聞くことでいいアイデアが生まれたり、口コミが広がっていったりするので、今後は、事業計画などできたときに 4 市へ行って、県民への説明会を開いていただきたい。 ・三番瀬の再生については、県で進めている生物多様性の計画の流れとリンクさせて検討していただきたい。また、県の関係部局でも日常の広報の中で三番瀬を扱っていただきたい。 ・猫実川河口域における生物多様性の実態が把握されていないのに、砂の投入などの支援を進めていくのは問題だと思う。評価委員会の事前了解を得て進めるという手順を踏んでいただきたい。 ・船橋市は、工事が具体化している他市と比較して市民の関心が濃いいとはいえない。三番瀬の再生状況や、千産千消、地球温暖化による三番瀬の変化などの視点も含め、市町村広報の積極的な利用を希望する。 ・やはり新聞に書いてもらえるようなことをやらないとだめだと思う。三番瀬パスポートやキッズ事業など楽しいソフト面の事業が実現に移される気配がない。一般の人の関心が三番瀬に向いてくるよう検討し
------------------------	---

第 23 回 会 議	ていただきたい。 ・【県の回答】県政10大ニュースで三番瀬事業計画の策定が7位だった。折に触れて情報発信をしていることへの評価だと思うが、これからソフト事業を充実していきたいと考えている。 ・三番瀬再生実現化試験計画等検討委員会等での議論について、先に結果を報告すると出戻りが多くなるので、プロセスから県民とヒアリングをするなど共有していく仕組みを考えていただきたい。お互いコミュニケーションが取れてくれば、方向性がはっきりすると思う。 ・【県の回答】三番瀬再生実現化試験計画等検討委員会について、昨年度は庁内で検討した。今年度は、個別の検討委員会ということで、当該委員会を設置し、再生会議委員に検討いただく場ができたものと考えている。なお、三番瀬再生実現化試験計画等検討委員会ですべてを決定するというのではなくて、検討した事項を再生会議に提案し、フィードバックしていくような方法で進めていることを御理解いただきたい。 ・ラムサール条約に関して、県議会の理解が得られない根本的な理由は何か。 ・ラムサール条約を推進することによって三番瀬への認識が広まってくる。再生会議として条約への登録を「求めていく」決議をするぐらいの方向性が大事だと思う。 ・条例づくりやラムサール条約への登録の必要性を切に感じている。船橋漁協としてもラムサールに登録した漁師の実際の話聞くことなどを早急にする必要があると感じている。 ・なぜ三番瀬を保全していかなければならないのかを、地球温暖化問題や食糧問題などと併せて骨太に前面に出していかないと、一般の人は関心を持たないのではないかと感じている。 ・市川市の漁協も、漁場環境の改善が進むのであれば、ラムサールへの理解が得られるはず。同意が得られないのは漁場の改善が進まないからだと認識している。 ・ラムサール条約の効果は大きい。もしかしたら、環境学習施設の国の補助金も得られるかもしれないし、一般の人へのアピールもかなり違ってくる。 ・【県の回答】漁業者が反対しているから進まないということではなくて、船橋以外の漁協では漁業補償問題の調停が始まったばかりであるということ、三番瀬漁場再生の問題も検討中ということで、もう少し先が見えてくる状況にならないと真剣に検討できない、もう少し時間が欲しいというニュアンスと聞いている。鳥が増えることによる海苔や魚への悪影響の懸念も聞いている。
-----------------------------------	---

第 23 回 会 議	また、ラムサール条約は地域の幅広い方々の総意の下で登録される必要があることから、日常的に関わりの強い漁業者から先に意見を伺う機会を設けているものである。 ・三番瀬がなくなれば、漁業は消滅し、鳥もいなくなる。ラムサールは今の状況からすると緊急のことと認識している。船橋の漁場だけでもラムサール登録ができればいつでもやりたいと考えている。 ・今まで一つ一つのところを手堅く押えていくというところが欠けていたので、懸案をきちんとクリアしたり、昼間に現場を見に行ってみる等お互いにやり方を変えて、ダイナミックに着実に進めていく必要がある。「一緒に作っていく」という仕組みを検討してもらえれば、委員ももっといろいろできるし、やりがいもあると思う。 ・再生会議は、事務局対委員という図式ではなく、同じベースに立って、同じような理解をしていかなければ、お互いに知恵を出し合うことはできない。ラムサールについては、具体的に何が問題で今後どうするのか、事務局として整理していただきたい。 ・予算がついていないソフト事業が進まないという問題点があるので、企画調整課で事業ごとに担当を決めて着実に進めていっていただきたい。 ・今年度、環境学習施設等検討委員会が開かれてなく、どのようにしていくのかが課題だと思うが県としていかがか。 ・【県の回答】環境学習基本方針の策定がずれ込んでしまったため、年明け以降に吉田委員長と相談して開催時期を決めていきたい。 会長まとめ（議題２） ・広報について、県民に関心を持ってもらい、支持をしてもらうという流れをうまい方法でつくっていくことは大事だと思う。今は、事業も仕込み時期であることから活動が地味にならざるを得ないが、それぞれの時期での有効な広報、情報発信の仕方を検討していただきたい。何人集まったとか何行記事に載ったとかそういう尺度から有効な方法を開発していくこともいいのではないかなと思う。また、今回、いろいろ意見が出たのでそうしたことを強化していくことになる。 ・三番瀬再生実現化試験計画等検討委員会については、県で案を固めてから議論が始まると、根本的な議論にならないので議論のあり方を工夫していただきたい。まちづくりの進め方については、県と市が合意して再生会議と対峙するという構図になってはまずいと思うので、そうならないようにフランクに意見交換できるようにして欲しい。 ・円卓案については市民の意向を十分反映したのかどうか反省すべき点もあるので、我々としてもそこを注意しながら議論していく必要がある
-----------------------------------	--

第 23 回 会 議	る。 ・平成20年度千葉県三番瀬再生実施計画(案)への意見書については、留意すべき事項に、広報の充実、情報発信の充実という趣旨を加える。また、「県が広域的な観点から調整を図るべき事業については、地元市や国との連携、あるいは県民や関係者との連携をさらに密にし」と補足する。ラムサールと条例については、去年の意見書と同じ表現を再掲する。他、詳細の文案はお任せいただくこととしたい。 3 報告事項について ・台風9号による江戸川放水路からの出水について、国土交通省から出水の概要説明があった。 ・三番瀬再生実現化推進事業及び市川市塩浜護岸改修事業の進捗状況について、浦安市日の出地区の状況等について、それぞれ事務局から説明があった。 4 その他 ・浦安市の都市計画に関して、市民、県民、行政、関係機関が協働で知恵を出し合って、三番瀬を活かしたまちづくりを協議する場を早急に設置していただきたい。 会長まとめ（その他） ・次年度の再生会議の進め方については、再生会議の中に個別のテーマごとに検討グループをつくって、実質的に議論が進化していく方法を考えていきたい。事務局と詰めて、すべて一斉にスタートさせるというわけにはいかないかもしれないが、必要度の高いものからそうした仕組みをつくっていきたい。
-----------------------------------	--

第 24 回 会 議	【平成20年6月13日（金）午後6時～午後8時53分】 1 第22回から第23回までの再生会議の結果について 資料1に基づき、大西会長から概要が報告された。 2 知事あいさつ 議題1が終了した後、堂本知事から、以下のとおりあいさつがあった。 ・各年度の実施計画に基づいて再生事業を進めているが、目に見える ような形で少しずつ進んできた。三番瀬の再生は、大変長い時間がかかってきたこともあり、これからもこつこつと長い時間をかけた歩みをしていかなければと思っている。 ・千葉県では、昨年から生物多様性県戦略をつくってきたが、三番瀬は、海、汽水部分の生物多様性をどのように保全するかということも一つの大きなテーマだと思う。 3 19年度三番瀬再生事業の実施結果の概要及び20年度の実施方法等について 資料2-1～4により事務局から説明があった。その後、資料2-5により細川座長から三番瀬評価委員会の検討結果について報告があった。 主な意見等は次のとおり。 ・「アサリの資源生態に関する総合調査」の中で、過去3ヵ年、平米当たり20～29個だったものが、8月に378個に増えているが、9月の江戸川の出水により、だんだんと減少して2月には44個に減っている。このことについてどのように評価・理解したらよいのか。 ・【県の回答】アサリの細かな密度変化は漁場再生検討委員会で報告しており、今回は要約版として結果概要のみを示した。冬季の減耗については、過去3年平均に比べて、19年度の調査結果がよかったということである。例年12月位から密度が低下して、2月位には平米当たり20～29個程度の数字になる。詳しい資料もあるので、必要に応じて報告させていただきたい。 ・総合治水対策特定河川事業に「新たな水環境の創造に取り組みます」と記載されているが、海老川水系のネットワーク管の完成に伴い、公共下水道整備が急ピッチで進むことにより川の流量が減って生態系に影響しないか、三番瀬との関わりにおいて私ども市民は非常に注目している。20年度以降の計画も含め、状況を説明していただきたい。 ・【県の回答】海老川流域の長津川、飯山満川に対して、昨年10月から下水高度処理水の河川還元を行い、放流口の直下流と下流1kmの地点でモニタリングを実施している。BOD、DOの改善が認められるが、
------------------------	---

第 24 回 会 議	引き続きモニタリングを実施しながら総合的な評価をしていきたい。 ・昨年度、環境学習施設等検討委員会が開催されなかったことは、重要な課題だと思うが、その理由、背景を教えてください。 ・【県の回答】１８年度は、７回の会合・２回の視察を通して検討委員会の報告をいただいた。その結果に基づき関係部署等と今後の委員会の進め方等を検討したり、県環境学習基本方針の策定を進めていた状況であったため、昨年度は開催できなかった。大変申し訳なく思っている。 なお、先日、環境学習施設等検討委員会の吉田委員長と相談し、今年度７月を目途に開催したいということで、現在、調整を進めている。 会長まとめ（議題２） ・幾つかデータが不足している箇所も見受けられたので、後日整理して、委員に提供するとともに、ホームページ等で一般の方にもわかるようにしていただきたい。 ・評価委員会への指示事項は、以下のとおり、 実現化推進事業については、試験実施による周辺環境への影響予測、モニタリングの手法及び実験方法の妥当性についての専門的な分野からの助言 三番瀬自然環境調査事業については、１９年度調査結果に基づく三番瀬全体の評価について 市川市塩浜護岸改修事業については、２１年度実施計画作成に向けたモニタリング手法及び砂つけ試験案の評価について検討していただくこととする。 なお、県は、評価委員会座長の要望に応じた必要な情報・データの提供を行うこと。 ４ ワーキンググループからの報告について 資料３により、各ワーキンググループ代表委員からの報告後、今回は「ラムサール条約」について質疑応答及び意見交換が行われた。 主な意見等は次のとおり。 ・せっかく円卓会議から再生会議という形で４市とも集まって議論してきたので、できれば全面登録をし、三番瀬に対する関心も今一度高めることに挑戦していただきたい。特に堂本知事は、生物多様性知事として本当に頑張っていたいただきたい。 ・ラムサール条約の登録の前提となる鳥獣保護区の国指定について、積極的に県からも働きかけをしていただきたい。 ・三番瀬再生の議論を随分長く続けてきた。成果の一つとして、船橋航
-----------------------------------	---

路と市川航路の間から段階的にでも登録していただいた方がいいと思う。

- ・スピードを重視して、段階的な登録を目指したらどうか。
- ・ラムサール条約の登録推進決議をされた船橋市漁協の提案をもとに、段階的に登録を進めていこうという意見については、「全面登録のほうがいい」との主張もあるが、全面登録を妨げるものではないので、ステップを踏んで進めていくこともあり得るのではないかな。
- ・【県の回答】日本の中で現在33ヵ所登録されているが、いろいろな資料を見ると段階的登録がなされているものはないと思っており、環境省に聞いてみたところでも、そのようなケースはないとのことだった。もし、今後検討する場合、どのような手続が必要なのかということもまだ何もないので調べてみなければならない。
- ・知事がこの海域を救ったわけだが、トップが代われれば施策も変わるのではないかな。そうした事情の中で、ラムサール登録を目的ではなくて、海域を良好な状態に残すための手段として選んだ。段階的にやれば、それぞれの組合の漁師たちも、それがいいのか悪いのかよくわかると思う。

会長まとめ（議題3）

- ・段階的登録については、全面的な指定を求めつつ、もし可能であれば、ある場所に限って次のステップで登録するなども、全面登録推進運動の過程で一つの産物としてあり得るのではないかな。事務的にも検討したり、対外的にも情報収集していただく必要があると思うので、また、その報告を受けることとしたい。
- ・（時間の都合上、）ワーキンググループの成果を踏まえた議論は、次回の再生会議に継続する。

5 報告事項について

- ・三番瀬漁場再生検討委員会の検討状況、第23回行徳内陸性湿地再整備検討協議会（H20.4.23）の開催結果、20年度行徳湿地再整備事業における導流堤改修工事、市川市塩浜1丁目護岸暫定補強工事について、それぞれ事務局から説明があった。

会長発言

市川塩浜1丁目護岸については、今の状態で放っておけないので、どのように手当をするか、すこし根本的な立場からの整理を県にお願いしたい。

第 24 回 会 議	6 知事の発言 最後に堂本知事から以下のとおり発言があった。 ・ラムサール条約について、おそらく部分的な指定は難しいと思うが、こうした議論ができること自体が前進なのではないかと思っている。 ・40年もの間、埋立予定だったところがきちっと残され、皆様の総意でワーキンググループや、県もそれぞれ担当者が一生懸命に仕事をし、かつてこういうような形での作業はなかったと思う。ここまで7年間やってきて、こういう形で続いていること、傍聴の席にこれだけ大勢の方が聞いてくださっていることに感動を覚える。 ・円卓会議から再生会議への最大のメリットは、話し合いの場があることそのものではないか。こうして話し合い、情報を共有し、今後もできる限り情報公開したい。 7 その他 事務局に代わり会長から、20年度三番瀬再生支援事業補助金について簡単な説明の後、次回再生会議（9月9日（火））は開会時刻を17時30分に早めることが了承された。
-----------------------------------	---